一般社団法人 工学院大学校友会

千葉県支部会報 NO.28

一般社団法人 工学院大学校友会　千葉県支部会報 NO.28　令和6年5月22日発行　（上の'k'は本学園のロゴマーク）
千葉県支部事務局:（〒299-0117）千葉県市原市青葉台7-16-10　TEL　0436-61-6544（令和5年5月28日より）

団塊世代と後期高齢者

千葉県支部長　新海　昌美（電気工学科・1970卒）

2023年　校友会「社員総会」修了後、前支部長横田さんから、千葉県支部長を引継ぎました新海です。宜しくお願いします。

私は1947年生まれで支部長就任時は既に75歳になっていました。75歳といえば、後期高齢者とよばれる年代です。そこで、この75歳、後期高齢者とは何か？ふと、疑問がわき、Webで調べてみました。（ググる？？？）

大きな変化は「国民健康保険制度」ではないでしょうか？74歳以下の全てのひとが加入する「医療制度」、75歳になると多くのひとが「後期高齢者医療制度」に移行します。「後期高齢者医療被保険者証」が郵送で送られて来た時、「ついに、自分にも高齢者の招待状が来た」とその年齢を意識しました。

現在、我が国では65歳以上を高齢者、そのうち65～74歳を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と定義しているそうです。また、各種公的機関が行う人口調査では64歳以下を「現役世代（1歳未満を乳児、1-5歳を幼児、6-14歳を児童、15-44歳を青年、45-64歳を壮年、65-74を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者、85歳以上を超後期高齢者」と区分しているそうですが、ご存じでしたか？私は知りませんでした。

我々の世代（1947～1951年生）は「ベビーブーム世代」を呼ばれ、その後、堺屋太一著小説「団塊の世代」が発表されると、今度は「団塊の世代」と呼ばれ、いまは2025年問題の中心で生活しています。

第二次世界大戦終戦後（終戦は1945年）戦地から多くの兵士が戻り、平和な日本になり、前後の世代に比べ、極端に人口比が高い現象が起こり、特に1947年～1949年の出生数は毎年250万人、3年で800万人になったそうです。（2023年の出生数は76万人）急激に出生数が増えたわけです。

私が育った町は東京の西の外れで人口も2万人にも満たない町でした。町には3つの小学校と1つの中学校がありました。3つの小学校の卒業生の多くは唯一の中学校に入学します。中学校では我々が入学する前年までは一学年のクラスは5クラス程度。しかし、我々の学年では11クラスに増え、翌年以降も10クラス以上の生徒が入学しました。急にクラスが増えた他の町では校舎が足りず、プレハブ校舎や、2部授業が行われていたという話が伝わってきていました。この人数で、高校入学、大学入学、社会人となるわけで、前世代に比べこの世代は人口が倍以上の人数になるわけで、どうなるのだろうと、思うのは私だけだったのでしょうか？

幸い、高校、大学と、何とか工学院大学に拾って頂き、無事卒業することができました。しかし、社会人となり、会社に入社したときも前年の新入社員は十数名でしたが、我々の入社時は高卒、大卒合計で百名前後が入りました。社会全体でも景気が良くなったことも幸いしたのでしょう。翌年も同程度の新入社員が入り会社も我々の入社前に比べ倍近い社員数になりました。

これから10年、どうなるのか？と楽しみでもあり、心配もしました。そして10年もすると同期の社員の半分ぐらいは転職、退職し、20年もすると、転職や退職で同期は2～3人になりました。私もその会社を20年勤続前に転職しました。

現在、私は趣味で「アーチェリー」を週2～3回行っています。「アーチェリー」は、65歳定年後、友達に誘われて参加しました。この団体名は「Dankai Power Club」です。まさに、団塊世代が集まって活動しています。最近は団塊世代を過ぎた65歳前後の人も参加するようになりました。構成年齢は80歳が2名、その下が74～76歳、私と同年代が10名程度、だんだん若くなり、一番若くて65歳ぐらいです。勿論、女性も同年代で8名が参加しています。

この「Dankai Power Club」は「アーチェリー」を通して、親睦を深める、老人会のようなものになっています。話題は健康面、後期高齢者になれば、体の1～2箇所何処か悪くなってきています。皆さん担当医（掛かりつけ医）があるようです。また、運転免許証の更新、「高齢者講習」（70歳以上）とか「認知機能検査」（75歳以上）とか。運転免許証を返納した人も居ます。車に乗らず、自転車に乗っているので、健康になった。などの話も聞きます。

2025年問題もあります。社会に迷惑を掛けないようにしなくてはいけませんね。ベビーブーム、団塊の世代と、多くの同年代と共に生きてきましたが、戦争も無く平和な時代を生きて来たと、感謝しています。

高齢者川柳

アルバムで　確認し合う　同窓会

第69回千葉県支部報告会兼意見交換会と懇親会開催ご案内

日　時：**令和6年6月1日（土）　14:00開会**
会　場：船橋市勤労市民センター　船橋市本町4－19－6
☎ 047－425－2551　HP　http://funabashi-ksc.or.jp
交　通：JR船橋駅　南口徒歩5分　京成船橋駅　東口徒歩3分
会　費：5,000円（懇親会費として）　**懇親会会場：すし土風炉　船橋店**

◎当日のスケジュール　1．報告会兼意見交換会　14:00～16:00　　2．懇 親 会　16:30～18:30

報告会兼意見交換会と懇親会にご出席頂ける方は、5月29日までにメールまたは電話でご連絡ください。
【連絡先】　メール：chiba@kogakuin.or.jp　　電話：090-5577-0932（新海携帯）

誠に恐れ入りますが、報告会兼意見交換会にご出席できない方は、年会費を同封の払込取扱票にてご送金ください。その際、通信欄にメールアドレスをご記載いただければ、そちらに支部報告会兼意見交換会のみならず、各種行事の案内状を配信させていただきます。

支部からの案内は校友会のホームページ『校友会HP⇒支部活動⇒支部掲示板⇒千葉県支部』からもご覧になれます。

千葉県支部報告

1．支部報告（新海　昌美）

コロナ、インフルエンザとまだまだ気の抜けない状態が続いていますが、千葉県支部ではコロナ前の年度に実施していました活動を実施することができました。

・第68回千葉県支部報告会兼意見交換会と懇親会

令和5年6月3日、船橋市勤労市民センターで実施しました。支部組織部副部長　櫻井良尚様、埼玉西支部　島林正美様の参加をいただき、総勢17名での開催になりました。前回までの報告会は前年社員総会の内容を報告していましたが、今回からは直前開催された第11回社員総会の内容を報告しました。（詳細は3. の項目を参照してください）

その後、懇親会が行われ、久ぶりに酒を飲みかわしました。そして、ひょんなことから校友会支部のユニフォームを作ることになり、早速作成しました。

それが、下の写真です。

左袖に校章と左胸に工学院大学ロゴ

新宿校舎をイメージ

報告会兼意見交換会出席の皆様

前列左から　島林さん、佐藤さん、櫻井さん、横田さん、新海、内山さん、大日向さん

後列左から　植木さん、成田さん、長谷川さん、古澤さん、吉村さん、小高さん、井坂さん、長島さん、東さん、新井さん

・芋掘り＆BBQ大会

令和5年9月30日（前回は台風接近予報があり直近で中止にしました。）、今回は天候にも恵まれ、佐倉市「草笛の丘」で開催することができました。

支部組織部副部長　櫻井良尚様、埼玉県西支部　島林正美様の参加をいただき、総勢15名で開催することが出来ました。午前中、芋掘り体験。午後にBBQを行いました。

芋掘り風景

BBQ

芋掘りBBQ 集合写真

前列左から　岩本さん、來住さん、内山さんの奥様、櫻井さん

中列左から　大日向さん、島林さん、内山さん、東さん、成田さん

後列左から　植木さん、吉村さん、井坂さん、新井さん、新海、古澤さん

・千葉県支部ゴルフコンペ

令和5年11月5日、東京国際空港ゴルフ倶楽部で10名の参加で実施しました。

参加メンバー

前列左から　横田さん、田中さん、前田さん、大嶋さん、八木さん

後列左から　紙谷さん、大日向さん、高橋正良さん、田中さん

撮影者は高橋明彦さん（写真なし）

・居合抜きと忘年会

令和5年12月2日、市川市公民館で久ぶりの体験会を実施しました。講師5名と支部会員が10名でした。

居合抜きを体験後、岩本教士七段と木村四段の模範演技がおこなわれました。その後、近くの居酒屋で忘年会が行われました。

高齢者川柳

お嬢様　いつの間にやら　おババ様

岩本莞庵博行七段と木村姫都美四段の模範演技

前列左から　大嶋さん、岩本教士七段、内山さん、木村四段、内山さんの奥様
後列左から　大倉三段、加藤さん、保津教士七段、新井さん、東さん、島林さん、大日向さん、合渡五段、來住さん、新海

・千葉県支部新年会

令和6年に入り、1月の第4土曜日の27日に新年会を実施しました。場所は、西千葉「鮨割烹　みどり」で開催しました。参加者は15名と、ちょっと寂しい感じがしました。初めて近隣支部へ参加依頼をしましたが、同日の新年会開催の支部もあり、東京支部から椋田支部長に出席していただきました。

前列左から　古澤さん、成田さん、椋田東京支部支部長、内山さん、寺岡さん、新海、東さん、横田さん
後列左から　井坂さん、小高さん、吉村さん、長谷川さん、加藤さん、佐藤さん、植木さん

2．全国支部長会の報告（新海　昌美）

令和6年１月21日（日曜日）、13時30分～15時30分、新宿校舎28階の校友会談話室と全国支部長をリモート回線で繋ぎ、全国支部長会議が開催されました。式次第は以下の通りです。

1．校友会会長挨拶　小澤和重会長
2．来賓挨拶　伊藤慎一郎工学院大学学長
3．新支部長紹介
4．意見交換、宿題回答　支部組織部部長　中里利男氏
5．学生プロジェクト報告　学生フォーミュラ
6．全国大会高知大会紹介　高知県支部磯久毅氏
7．支部活動報告　福井県支部　乾義秀支部長
　石川県支部　表俊博幹事
　相模支部　中里利男支部長
8．維持協力会費のお願い　財務部部長　徳田博文
9．今学園で起きていること　校友会会長　小澤和重
その他、事務連絡、質疑・応答

内容は以下の通りです。

1．校友会会長挨拶

・今年は校友会設立125周年の記念の年となった。このような時に1月7日に「新春の集い」が諸般の事情で開催できなかったことは残念。（諸般の事情について、別途記載）
・12月中には125周年記念誌の発行を予定している。
・長年の課題であった定款の改定をおこなった。今年は関連規則を改定する予定である。そして財政の健全化、活動の活性化、学園支援の強化を三本柱として推進していく。
・支部の重要課題として、後継者の問題があり、特に若手の参加が少ない。伊藤学長の提案で、卒業式に校友であることを意識してもらい、校友会本部や支部の活動に積極的に参加してもらえるよう、年度代表幹事を任命することにした。毎年、年度代表幹事を任命し、代表幹事の証となるペナントを授与することになった。

2．来賓挨拶

・工学院大学の現状について、説明があった。　河合塾の偏差値では、各学部52.5以上　GMARCHに匹敵。１級建築士試験合格者数、全国6位。壁一面がモニター（デジタルツインラボ）AIやBIMを取り入れたカリキュラム。ソーラーカーチームはチャレンジクラス8位。学生フォーミュラは総合2位のはずだったが、最後のチェッカーフラッグを見落として1周多く走り4位になってしまった。
・大事なことを共有。文科省補助金の減額の可能性あり。無謀なリニューアル計画、評議員選挙で負けると評議員会結果を無効にする寄附行為（定款のこと）を変更し、評議員会を開かずに理事長に居座る。総額800億円のリニューアル計画は阻止しなければならない。私学助成金、減額内容は不明。後援会・校友会による署名活動が始まっている。ヤフージャパン、グーグルにて「工学院大学　署名」で検索し皆さんで署名を進めてもらいたい。 活動を広げる寄付は不要、拡散不要。
・（伊藤学長は）3月末で3年の任期を終る。お世話になりました。署名活動をよろしくお願いします。

3．新支部長の紹介

以下の6支部が新支部長として紹介された。
千葉県支部　新海昌美支部長、群馬県支部　山内彰支部長、大阪支部　白成龍支部長、兵庫県支部　大前奏

也支部長、高知県支部　磯久毅支部長、愛知県支部　河崎奏了支部長

4．意見交換、宿題回答

支部組織部部長中里利男氏から前回支部長会で未回答であった4項目について回答があった。

5．学生プロジェクト報告

学生プロジェクトとして、「学生フォーミュラ」と「高校ソーラーカー」の報告があった。

6．全国大会高知大会の紹介

・高知県支部磯久毅氏より紹介があった。

11月9日（土）は校友会125周年記念式と併設。記念講演は「ジョン万次郎」について。翌10日（日）はオプショナルツアー。参加費１万円、2コース設定（龍馬コース、仁淀川コース）、参加申し込みは JTB 高知支店。各支部の皆様、奮って参加をお待ちしています。

7．支部活動報告

福井県支部乾義秀支部長、石川県支部表俊博幹事、相模支部中里利男支部長が報告を行った。特に福井県、石川県は「能登地震」直後でもあり、被害状況などの報告もあった

尚、「今、学園で起こっていること」については本会報の「母校の近況」コーナーに詳しく記述しました。

3．2023年度校友会定時社員総会の報告

（植木　幸裕）

2023年に行われた第5期の代議員選挙で、千葉県支部から7名の代議員が選出された。この代議員の任期は2023年4月1日より始まっているので、本来、この第5期の代議員が社員総会に出席し、議決権を行使することが定款で定められている。

しかし、今回の社員総会は異常で任期が2023年3月31日で終了した代議員に議決権を与え、4月１日から任期が始まった新代議員に議決権を与えないという明らかに定款違反状態での開催となった。

定款違反状態というのは、代議員の任期を4年から2年に定款変更したのに伴い、代議員選出規則の改定を行ったが、これが定款に違反する条項を追加したことに依る。

定刻通り開会が宣言されたものの、総会成立の報告が行われる前に、この件で出席者から発言があり、総会の成立要件に係わる質問であった為、発言が許可されて質問を行った。総会の招集権者である田野邉会長に回答を求めたが、要領を得ない回答で、他の出席者からも定款違反を指摘され議事に入れない状態が30分程続いた。結果的に小澤総務部長が非を認めて「おかしなところがあったかもしれないが、早急に規則の見直しを行う」ということで、一応、総会は任期が切れている旧の代議員（第4期代議員）で開催された。

筆者は、本部の総務部副部長を拝命しており、総務部会では、顧問らが提案してきた代議員選出規則改正案は定款と矛盾する条項が追加されている為、条項追加改定はしないことに決していたにもかかわらず、小澤総務部長は、定款違反となる代議員選出規則の条項追加改定案を理事会に提出し、多数決で押し切ってしまった。総務部の立場では定款違反していることは分かっていたので、総務部所属の理事として、理事会で3度にわたって再検討を申し入れたが、「理事会で決まったことを何度も蒸し返すな」との田野邉会長の発言で、再検討されることは無く、結果的に総会が混乱してしまった。理事会では、新海支部長が監事として出席しており、新海監事からも問題があることを指摘したが、他の二人の監事が特に問題と見なさなかったことから、新海監事の指摘は無視された形となった。

ここに至った原因は、田野邉会長及び小澤副会長兼総務部長が、定款に基づかない単なる思いだけで物事を進めようとしたところに問題があったと思う。総務部会で定款違反となるので顧問らが提案してきた案（顧問案）を否決したにも関わらず、その否決された顧問案と総務部会で審議した改定案の2案を、小澤総務部長が理事会に提出し、顧問案を僅差で押し切ってしまい、再三の再検討申し入れや、監事による指摘も無視した独断的理事会運営が、今回の総会の混乱を招いたと思っている。

波乱の幕開けとなった第11回定時社員総会第1部は2023年5月28日、9:30から新宿校舎3階アーバンテックホールとWebで繋いだリモートとのハイブリッドで開催されたが、リモート参加者については、事前に議決権行使書を提出してもらい、オンライン投票による議決権行使は行われなかった。

総会の審議事項である令和4年度の事業報告、決算については全員賛成で承認された。続く報告事項では、令和5年度の事業計画、予算報告がなされ、特に質問も出なかった。その他、機械系及び電気系の同窓会会長の交代、次期役員の報告等が行われた。次期役員は下記の通り。

会　長　小澤和重（1973年卒　電気系同窓会　東京支部）
副会長　白井精滋（1973年卒　化学系同窓会　湘南支部）
総務部　部長
　　高木雅行（1979年卒　建築系同総会　東京支部）
同　　副部長
　　小林将夫（1979年卒　建築系同総会　西東京支部）
財務部　部長
　　徳田博文（1975年卒　電気系同窓会　埼玉中央支部）
同　　副部長
　　小川隆（1981年卒　附属高校同窓会　西東京支部）
広報部　部長
　　成田治（1973年卒　機械系同窓会　横浜支部）
同　　副部長
　　鈴木充孝（1995年卒　建築系同総会　東京支部）
同窓会組織部　部長

高齢者川柳
手が出ない　転んで顔は　傷だらけ

内野正之(1975年卒　附属高校同総会　西東京支部)
同　　副部長
久保直紀(2012年卒　機械系同窓会　相模支部)
支部組織部　部長
中里利男(1979年卒　電気系同窓会　相模支部)
同　　副部長
櫻井良尚(1985年卒　専門学校同窓会　東京支部)
学園連携部　部長(兼)
白井精滋(1973年卒　化学系同窓会　湘南支部)
同　　副部長
平山徹夫(1978年卒　専門学校同窓会　川崎支部)
監事　　熊倉強(1978年卒　電気系同窓会　相模支部)
同　　佐藤弘規(1999年卒　建築系同総会　東京支部)
同　　太田正利(1973年卒　附属高校同窓会　西東京支部)
事務局長上野耕平(1973年卒　電気系同窓会　埼玉西支部)
同窓会会長交代
機械系同窓会
植木幸裕(1975年卒　千葉県支部)
⇒成田治(1973年卒　横浜支部)
電気系同窓会
島林正美(1974年卒　埼玉西支部)
⇒鷹野一郎(1984年卒　東京支部)
11:30からは第2部 学生プロジェクト活動報告会、13:00からは第3部 各同窓会報告会兼意見交換会が行われ14:30から第4部懇親会が中層棟7階食堂で執り行われた。

4．2023年度校友会臨時社員総会の報告

（植木　幸裕）

2023年12月9日（土）13時00分から定款改定の件で新宿校舎５階0542教室とWebで繋いだリモートとのハイブリッドで開催されたが、定時社員総会と同様に、リモート参加者については、事前に議決権行使書を提出してもらい、オンライン投票による議決権行使は行われなかった。

12月9日の臨時社員総会に先立ち、11月11日に定款改定説明会がハイブリッド開催された。定款の大幅改定であったにも関わらず、開催時間が1時間半と短く、各改定条項に対する質問が十分に行えなかった為、書面による質問書の提出を求められ、その質問書に回答する形で臨時社員総会の審議が進められた。臨時社員総会の開催時間も実質2時間程度であった為、主な改定条項の説明と事前提出のあった質問書の一部の回答に留まり、全ての改定条項についての審議は行われず、時間切れ採決となった。

全面改定と言えるような多くの条文の変更であったが、対面で参加できない代議員に議決権行使書を送り付け、各条項毎に可否を問うのではなく、全面改訂案そのものを一括で承認か、否認か、棄権で提出させておき、いざ採決となって賛否を取った結果、1票差で改定案が否決されたにも関わらず、議長からもう一度数え直すと発言があり、対面で出席していた複数の代議員から「一度採決したものを採決し直すのはおかしい！」と怒号が飛ぶも、総務部長が「賛成して」とお願いする中、数え直され、一人が否認を翻し、承認に回った為、今度は1票差で改定案が可決された。

事前提出された質問書に対する回答の説明においても、その説明に対して再質問しても的外れな回答をしてはぐらかしたり、回答しなかったり、挙句は時間が無いからとの理由で質問を打ち切り、取り合えず仮承認するということで採決するという、納得しがたい状況下で強行採決され、定款に紐づく諸規則の改正がされないまま、即日施行となった。

即日施行となった為、次の総会はこの改定された定款に基づき開催することになるが、今回の改定で、年会費を納めていない会員は正社員では無くなり、代議員の資格を失う者が出ることが予想され、また、議決権行使書の提出は総会出席とは見なさないという見解が示されていることから、総会混乱の火種が残されたままとなっている。

5．活躍するOB/OG

消防団の永年勤続功労章と章記の授与

新井　英伸さん（電気工学科　1991卒）

新井英伸さんは千葉県鎌ヶ谷市在住で、千葉県支部では幹事をされています。長年、地元鎌ヶ谷市で消防団に所属し、現在副団長として活躍されています。2023年3月10日に、消防庁長官より、永年勤続功労章と章記を授与されました。新井さんは上野動物園で施設の維持管理業務に従事しており、工学院大学でも教鞭をとられています。おめでとうございます！

高齢者川柳
消えかかる　愛しき妻や　緑内障

令和５年度会計報告及び令和６年度予算（案）

会計年度期間：4月1日より翌年の3月31日迄

収入の部

科　　目	5年度収支予算	5年度収支決算	6年度収支予算案
前年度繰越金	547,240	547,240	582,495
年会費	144,000	126,000	168,000
報告会兼意見交換会会費	100,000	80,000	100,000
新年会会費	150,000	90,000	140,000
忘年会会費	28,000	0	32,000
支部行事開催参加費	102,000	59,500	77,000
役員及び各種会費	0	0	0
支部割戻金	92,000	97,000	95,000
祝儀	0	0	0
寄付金	70,000	72,800	75,000
雑収入	9,500	265,700	35,000
受取利息	0	0	0
合計	**1,242,740**	**1,338,240**	**1,304,495**

支出の部

科　　目	5年度収支予算	5年度収支決算	6年度収支予算案
報告会兼意見交換会会費	110,000	78,565	97,000
忘新年会費	178,000	93,700	172,000
支部行事費(芋掘り,居合抜き体験会)	120,000	75,964	96,000
役員会費(会場使用料等)	5,160	0	0
広告・渉外費	0	0	30,000
他支部参加費	15,000	9,000	25,000
同好会補助費	0	0	0
会報作成費	154,000	143,000	165,000
通信費（案内状）	85,000	71,729	74,000
交通費	12,000	4,172	15,000
文具費	36,000	33,000	3,000
寄付金	0	0	0
予備費	10,000	0	10,000
その他	0	246,615	35,000
小計	725,160	755,745	722,000
次期繰越金	517,580	582,495	582,495
合計	**1,242,740**	**1,338,240**	**1,304,495**

財産目録

令和6年3月31日現在

預貯金	ゆうちょ銀行普通預金	582,495
	ゆうちょ銀行振替口座	0
現金		0
資産合計		582,495

会計監査報告書

令和5年度（令和5年4月1日より令和6年3月31日迄）の収支決算書及び令和6年3月31日現在の財産目録につき関係書類等により監査したところ適正であるものと認める。

令和6年4月1日

会計監査　　成田　忠志

令和5年度事業活動報告（概要）

4月　6日(木)　千葉県支部　令和4年度会計監査
5月 19日(金)　千葉県支部会報27号発刊
5月 28日(日)　定時社員総会（工学院大学　新宿校舎にて）
6月　3日(土)　第68回千葉県支部報告会兼意見交換会&懇親会
　報告会兼意見交換会　船橋市勤労市民センター
　懇親会　船橋市「土風炉」
9月 30日(土)　芋掘り&BBQ大会（佐倉市　「草笛の丘」）
11月　5日(日)　千葉県支部ゴルフコンペ
　香取郡多古町　「東京国際空港ゴルフ倶楽部」
12月　2日(土)　居合抜き体験と忘年会
　市川市公民館にて「居合抜き体験」を実施
　同市にて、忘年会
12月　9日(土)　臨時社員総会（工学院大学　新宿校舎）
令和6年
1月 21日(日)　全国支部長会議　リモートで参加
1月 27日(土)　千葉県支部新年会
　西千葉　「鮨割烹　みどり」

令和6年度事業計画（案）

4月　千葉県支部　令和5年度会計監査
5月 22日(水)　千葉県支部会報28号発刊
5月 25日(土)　全国支部長会議
　工学院大学　新宿校舎
5月 26日(日)　定時社員総会
　工学院大学　新宿校舎
6月　1日(土)　第69回千葉県支部報告会兼意見交換会&懇親会
　報告会兼意見交換会　船橋市勤労市民センター
　懇親会　船橋市「土風炉」
10月　5日(土)　芋掘り&BBQ大会
　佐倉市　「草笛の丘」
11月　千葉県支部ゴルフコンペ
　香取郡多古町　「東京国際空港ゴルフ倶楽部」
12月　居合抜き体験と忘年会
令和7年
1月 25日(土)　千葉県支部新年会
　西千葉　「鮨割烹　みどり」（予定）

令和6年度は近隣支部との交流を深める予定です。

高齢者川柳

コロナ去り　顔は出たけど　名前出ず

小説、「昭和の青春物語」を発刊して

千葉県支部顧問　（機械工学科･1961卒）寺岡　光二

1．出版と、寄贈、そして今後

本書は昨年10月15日が初版第1刷の発行ですが、相応の期間を経ておおよその成果を問えるようになりました。

初版は1,000部、出版は「株式会社文芸社」です。その内、最初に100部を千葉県支部に寄贈させて頂いて、新海支部長の裁量により各位に配布、読んで頂いております。

著者である私の裁量でも100部を、近親者、市川市の図書館（市川市は著者の住居）、諸団体に寄贈させて頂きました。文芸社には30部を寄贈、各所に展示など、本の販売促進に役立てて貰っています。残りの770部は本屋さんの店頭に並び販売されています。

今年1月10日迄に約200部が販売され、残りの570部が販売中です。販売は3年間継続され、その間に全数が販売尽くされる見通しとなると第2刷の発刊に繋がります。「本と言うものは、できるだけ多くの人に読んで貰って価値がある」と、文芸社の関係者に発刊を決意したときに言われて非常に感動したことが思い起こされます。

第2刷の発刊になれば、やはり嬉しいでしょう。でも、私の発刊は第1刷で、ほぼ目的は終わっているように思えてきた今日この頃です。

2．発刊の目的、動機

それは読者に訴えたいと言うことに尽きます。言わば、無一物の少年が努力してさまざまな困難を乗り越え、定時制高校の入学から始まって、更に大学を卒業して一流企業に正社員として務める青春時代を物語りとして、発表したかったのです。

本を読めば、全て判ることですが、困難な日々のポイントを幾つか、以下に記述させて下さい。そこには虚構を多少導入して青春の恋物語のロマンスのムードも加え、物語としてムードを盛り上げるように配慮もしています。

1）家が貧しかった為に、新制中学を卒業すると町工場の機械工として就職せざるを得ず、心底では大学を卒業して一流企業に勤め大成したいと願っていたのですが、1年遅れての定時制高校入学の人生計画で、この物語は実質的にはじまりました。

2）妹二人を全日制の高校に入学させました。全日制と定時制の社会での見られ方、就職などでの差、通学が夜、しかも遠路なので女子高生には？と考え、二人共に全日制の高校に入学させましたが、兄として、家族全員で精一杯の頑張りがありました。

3）石川島重工業株式会社（現在のIHI）の土光敏夫社長（後に東芝社長・会長、経団連会長等）の実力主義に基づく即戦力設計技術者募集に、大学二年の時に応募し、30倍以上と言われた試験に合格。正社員となり、産業機械設計部に勤務しながら、工学院大学機械工学科を卒業しました。

4）結婚したらどんな時代でも、子供には高等教育の機会を与えられるようでありたい、と自分の生い立ちを思い固い決意。高校時代からの美しいパートナーはいましたが、経済力無くして結婚は出来ないと考え、ロマンスの花は中々咲かせられず、ときは容赦なく過ぎてゆきました。結婚に至る道筋をパートナーと話しあって、大いなる協力を得て見通しは開けましたが、その結論は最後まで持ち越されます。

3．本書に頂いた評価、お言葉など

沢山の評価のお言葉をいただきましたが、そのうちの幾つかを要約して、以下に記述させてください。

1）中学の同級生で、今は仕事を離れていますが、川口市議会のトップクラスを務めあげた方が毛筆の手紙を下さいました。「あなたは我々の模範です」と、言ってくださり、更に、中卒で自力で大企業、大学を手にする姿はまさに立派で感動とあり、最後は「素晴らしい人生観有難う御座いました」とありました。

2）同人誌の仲間だった方は、ご本出版おめでとうに始まり最後に、「先輩の苦楽に満ちた人生経験がリアルに描かれており、読む人の心に訴えかけてきます。多くの人達に読まれることを願っています」と、ありました。

3）私の贈った本を、その友人が借りて読み、私のアドレスを知り、直接手紙を書いて送って下さった方が幾人かいます。何れも女性で、ファンレターかな？と喜んだ次第です。

4）一月最後の土曜日、千葉県支部新年会でもありました。私の未だ良く知らない若い方々が、本を完読したと言われ、お褒めの言葉と共に「ありがとう御座いました」と、丁寧に言ってくださったのです。感激、感動に胸を打たれました。

4．著者としての感想、思い

イギリスの劇作家シェイクスピアは、「リア王」の中で、「人は皆泣きながらこの世にやって来た」と言い、「生れ落ちるや誰でも大声で泣く。阿呆ばかりの大舞台に突き出されたのが悲しうて」と、登場人物に語らせます。「昭和の青春物語」の二郎は、町工場で際どい怪我をしたときなど、そんな赤ん坊と同じ気持ちで泣きたかったと思います。もう、70年も以前のことですが。

でも、大舞台に突き出された後、二郎は懸命に努力しました。努力は必ずしも実を結ぶか否かは判りませんが、二郎の場合、かなりラッキーに努力が報われたのではないか？と思います。

現に二郎、即ち私は米寿を迎えようとしていますし、工学院大学校友会千葉県支部の皆さんと、こうして広くお付き合いも、願っているのです。

了

馬で世界を観て廻る ～トルコ・カッパドキア編

（化学工学科･1969卒）岩本　博行

高齢者川柳

火は消した　戸締りOK　行先は？

昨年の会報No.27では、アイスランドでの乗馬体験を寄稿しましたが、今回は中東トルコの中央部、「岩石遺跡群」として1985年世界遺産に登録された、異様な景色で知られるカッパドキアでの体験をご紹介します。

2014年10月16日、トルコの中心都市イスタンブールに降り立った。ホテルに到着すると、夕闇の中にライトアップされたブルーモスクが目の前に見えた。翌日は、故安倍首相をガイドしたという、トルコ美人のセヴァンチの案内で観光。2016年のクーデター未遂事件前の当時は、穏やかな国で、各国の観光客で溢れていた。

最初に案内された陸上競技場のトラックのような広場は、映画「ベンハー」で死闘を繰りひろげていた二輪戦車の競技場跡。

次は大きなドームが特徴の世界遺産のアヤソフィア大聖堂。当時はまだ博物館だったので中に入ることができ、キリスト教の壁画とその壁画を上塗りしたイスラム教の壁画、両方の歴史的芸術を堪能することができた。

さらに青の回廊と言われるブルーモスクを見学。観光客といえども、女性は髪を隠さなければならず、同行の馬仲間の女性陣はスカーフを用意していた。青を基調とした美しい内装もさることながら、一番印象に残ったのは黒いヘジャブに身を包んだ女性信者の祈りの場所であった。男性は大きなドームの中の、目の醒める赤基調の絨毯の広い場所で祈っていたが、女性は、観光客用の通路の反対側の小さなスペースをあてがわれているだけであった。イスラム世界の男女差別の大きさを目の当たりにした出来事だった。

岩の中に街が・・

翌日、イスタンブールから2時間のフライトでカッパドキアのカイセリ空港へ。さらに車で宿のあるオルタヒサルという町へ。この町は要塞を思わせる大きな岩山が中央にそびえ、緑のない岩だらけの所で、さらに到着したホテルの異様な佇まいにも驚かされた。表側こそ、きれいに壁を造作しているが、部屋は岩窟そのもの。床はきれいなタイル貼りだが、むき出しの壁は乾燥したモルタルのような肌触りで、日本の土の洞窟のような湿気は全くない。ベッド、テーブル、洗面所、シャワー、トイレなどの設備は整っていた。いわゆる窓らしい窓は無く、くり抜いたのか自然なのか、三方の壁面に二ヶ所ずつ明り取りがあり、微妙な明るさであった。ちなみに、女性陣の部屋は表通路に面しているので、取り付け窓もあって明るく、バスルームにはバスタブも設置されていた。ただ、入口のドアを開けるとすぐベッドルームで、奥行きのない作りであった。

岩の間を潜り抜け

ここを宿として4日間の乗馬ツアーが始まった。乗馬クラブで初めてトルコの馬と対面した。アラブ系の馬で、日頃日本で乗っている馬体とほぼ同様で、違和感はなかった。

初日は、オズコナクの丘まで馬を走らせた。ここは、ローマ時代に異教徒として迫害されたキリスト教徒が、秘密の隠れ家として暮らした地下洞窟がある所だ。言われなければ気づかない普通の道路の下に、数千人の人達が1ケ月以上も生き延びられるだけの食料貯蔵室がある、都市とも言えるような大規模な隠れ家であった。入口には転がせば防ぐことのできる大きな石が置かれ、敵の侵入に備えていた。

二日目からは、この地の奇岩群と都市遺跡群の奇観に圧倒されることになる。

街の中心を堂々と馬で通り、川を渡って街を離れていくと、がれきを積み上げたかと思わせる、今にも崩れ落ちてきそうな岩山が見えてきた。岩山の所々に、洞窟居住群の跡が見られた。青銅器時代の穴居人の遺跡だという。崩れることもなく、悠久の時を超えて今も残っていることからも、この地の乾燥した気候を思い知らされた。四駆車か馬しか通れない岩場を抜けると、目に飛び込んできたのは巨大な石柱群。真下から見上げると、なんと10階建てのビル位はあろうかと思わせる高さであった。しかも、どの石柱も先端がキノコの傘かアスパラガスの先かと思わせる形状になっていた。これも、気の遠くなるような長い年月の浸食作用がもたらした地球の造形だった。

三日目は少し緑のある経路で、いくらか気持ちが和らぐ。やや背の低いキノコを思わせるような「妖精の煙突」と称される奇岩群の丘を抜け、平坦な道をゆったりとしたトレッキングで瀟洒な建物の並ぶ街に入った。

道端の並木に馬を繋ぎ、ティータイム。すぐ脇には自動車が停まっている。馬も車も一緒に停めるのどかな風景が、まだこの地域にはあった。

車も馬も一緒に停める

午後は、岩山に無数の穴が開いているピジョンバレーと言われる谷合をトレッキング。凝灰岩でできた岩山に、人はハトが巣にするための窪みを作り、その糞を肥料として利用したり、伝書鳩兼ペットとして飼育したりしていたという。昔の人の知恵の跡である。これらもしっかりと、遺跡として現代に残っていた。

さらに進むと、山の中に教会の跡。入口の洞窟をくぐると、中は天井の高いドーム状の広場であった。柱は一切無い、岩窟の自然空間を利用した祈りの場であった。外からはそこが教会だとは気が付かないような場所で、これは迫害から逃れていた異教徒の知恵だったと言われている。

四日目は、ローズバレーと言われているバラ色のモルタル状の滑らかな突起群を進んだ。突起群の間は、馬一頭がようやく通れる程度の幅で、スキーのスラロームのごとく抜けて行った。これぞ馬でなければ体験できないツアーの醍醐味である。

茸か？アスパラか？地球の造形

いろいろな造形の岩が林立するが、らくだ岩と言われる、まさに駱駝の形をした岩が祭られていた。それらを間近に見ながら休憩。見上げれば、はるか崖の上に観光バスが停まっており、観光客がこれらの奇岩群を見下ろしていた。

馬を降りて、突起群を登ってみた。さて戻ろうかと振り返って焦った。全く同じような突起が居並び、帰路が分からない。皆から見えない所まで登ったのだから、当然皆の姿は見えない。ふと見上げると、先ほどの観光バスが見えた。その角度を頼りに下っていって、皆の姿を見つけることができた。通路に道路標識があるわけでもなく、信号があるわけでもない。まさに迷路で、ガイド無しではとても行かれるところではないと、改めて思い知らされた。

連日ガイドをしてくれたのはアーメットという青年、補助として世話をしてくれたのはラファーエルという若い女性。トルコの人は日本の漢字に憧れているというので、最終日に「阿波瑪斗（アーメット）」「羅富亜恵瑠（ラファーエル）」と、画用紙にカラーペンできれいに描いてプレゼントしてあげた。トルコ語で「ありがとう」はTesekkur ederim と言う。イスタンブールのガイドのセヴァンチに教わった、発音が似ている「テッシュくれ」を連発して奇岩の郷を後にした。

らくだ岩と同じに構えて

高齢者川柳

欠礼の　はがきが二枚　今日もまた

若い諸君に送る　『あいづっこ宣言』

（電気工学科･1971卒）長谷川　努

あいづっこ（会津）宣言とは、平成3年度（1991年度）に福島県会津若松市が策定した宣言です。市民としての「誇り」を身に付ける為に、また若者に「会津の誇りと、自覚」を教える為に、江戸時代に会津藩にあった「什の掟」を参考にして作られた宣言です。会津若松の市民は誰でもこの宣言を暗唱できるそうです。「あいづっこ宣言」に入る前に、まず「什の掟」を紹介します。

「什の掟」とは会津藩校“日新館”に通う前の6歳から9歳までの子供達の為に藩が教えた“決まり事”です。会津藩の子供が、武士に成るための心構えを育てました。掟を破ると妥協のないペナルティが有ったそうです。

什の掟

㈠　年長者の言う事にそむいてはなりませぬ
㈡　年長者に御辞儀をしなければなりませぬ
㈢　虚言をいふ事はなりませぬ
㈣　卑劣な振舞いをしてはなりませぬ
㈤　弱い者をいじめてはなりませぬ
㈥　戸外で物を食べてはなりませぬ
㈦　戸外で婦人と言葉を交えてはなりませぬ

これに、「ならぬことは、ならぬものです」が付け加えられています。

あいづっこ（会津）宣言

㈠　人をいたわります。
㈡　ありがとう、ごめんなさいを言います。
㈢　我慢をします。
㈣　卑劣な振る舞いをしません。
㈤　会津を誇りに、年上を敬います。
㈥　夢に向かって頑張ります。
㈦　やってはならぬ、やらねばならぬ、ならぬことはならぬものです。

こうして並べると「あいづっこ宣言」は「什の掟」をベースに考えられた様に思います。

私の生まれは新潟県東蒲原郡という所で、会津地方は県境を挟んで隣に当たり、生まれた故郷はもともと会津藩の領地でした。町には山城があり、いつも白虎隊の真似をして、日が暮れるまで野山を走り回っていて、親から怒られていた思い出があります。きっと知らず知らずに「什の掟」を親から教わって居たのだろうと思います。

会社に入ってからの“やってはならぬ”と我慢して来た事、“やらねばならぬ”と一人頑張って来た事が走馬灯のように思い出されます。

今考えると、だいぶ古い話なのでコンプライアンスに引っかかりそうなので、軽めに紹介します。

1. 人をいたわります

①親切心を出しても、そのまま受け取ってもらえない事が多いと思います。
そんな時は相手の言う事をよく聞き、その人が言っている事を、理解するよう努めました。
②人の弱さ、嫌な部分を出来るだけ許容しようと思いました。
③人に親切にすることで、自分の恵まれた環境に気づこうと思いました。

2. ありがとう、ごめんなさいを言います

①ありがとう！ごめんなさい！と言われれば、その場がなごみます、又言われると、嬉しい気持ちになります。
②相手と気まずい事があっても、もとに戻るきっかけになります。
そんなことを言いながら、私は奥さんに「ありがとう！ごめんなさい！」を何十年も言った記憶がありません。解っていても言い出すのはむずかしい事なんです。こんなに短い言葉なので勇気をもって言ったらどうでしょうか！

3. 我慢をします

渋谷にある商業ビルの改修工事を担当しました。これは3か月間家に帰れない仕事でした。近くにマンションを借りましたが、そこへすら行くのはシャワーを浴びる為の数時間

だけでした、当社の担当者は5名で、工期は3か月、24時間稼働し交代で休憩をとって仕事を進めていました。一番辛かったのは、3か月の間に色んな職種の仲間が、耐えきれず職場を離れて行ったことです。

自分も何時かは投げ出してやろうと思っていましたが、「あいづっこ宣言」が頭をよぎり最後まで頑張る事が出来ました。

しかし、終わってみると、どんな仕事に就いても、“あれ以上厳しい仕事は絶対にない”と自分に言い聞かせ、スタートする事が出来る様になりました。（ものすごく自信が付きました）今では、たいへんな仕事を押し付けた先輩、会社に感謝しています。（今では、コンプライアンスに絶対引っかかってしまうと思います）

4. 卑劣な振る舞いをしません

仙台支店から「ゼネコンから工場新築工事の見積もりに参加させてもらえない」と泣き言が耳に入り、さっそく仙台支店に出かけました。

ゼネコンの支店長に「なぜ、見積もりにも参加させてもらえないのか！」「この状況を施主の社長に直談判していいのですね！」などと喧嘩腰で掛け合いました。

交渉の結果、ある部分の仕事を頼まれたのですが、あとから支店に聞くと、前の支店長とゼネコンの支店長が喧嘩をして、出入り禁止に成っていたと言う事でした。

今思い出すと、やはりあの様なやり方では問題の解決にはならないばかりか、さらに禍根を作ってしまったと、反省しています。

5. 会津（会社）を誇りに、年上（先輩）を敬います

今の私が在るのは、多くの先輩のお陰だと思っています。また、色々な場面で会社がフォローしてくれて、応援してくれて、だから伸び伸びとやってこれたのだと思います。

入社2年目で、まだ何もわかっていない頃、上司から某設計事務所の新築工事の担当者として、一人で現場に送り込まれました。毎日の打ち合わせでは、相手の言っている事が理解できず、いつもメモを取って先輩の所に行き、説明を受けてから図面を作る有様でした。そんな時大失敗をしてしまいました。機能的には問題なかったのですが、だれもが遣らないような失敗です。（内容を話すとだいぶ長くなるので、今回は触れないでおきます）早くそのビルを壊し、新しいビルになって欲しいとずっと思っていましたが、やっとの事で願いが叶いました。しかし、今あるのは、そんな先輩、会社の決断、そしてフォローがあったからだと思っています。

6. 夢に向かって頑張ります

自分のやりたいことを実現するために、目標を立て、がむしゃらに頑張ろう！私は30歳まで資格なんていらないよ！と粋がっていました。「資格が仕事を遣ってくれる訳じゃない、経験を積むことが何よりも必要だ！」なんて後輩に言っていました。

そんな時、先輩から「資格がないと出来ない仕事もあるよ、人の能力をどうやって判断するんだい！」と教えていただきました。それからは、資格を取る目標を立て、実行してきました。気付かせてくれた先輩に感謝しています。

『やってはならぬ、やらねばならぬ、ならぬことは、ならぬものです』

今まで、話してきた経験に尽きますが、私は何か決断しなければならない時に、この言葉をすぐに引き出せる様に頭の中の引き出しにしまっています。

『ならぬことは、ならぬものです』どれだけ勇気をもらった事だろう。

会津若松城

工学院大学の設立

（電気工学科･1961卒）内山　太

工学院大学の設立は、昭和23年2月10日、専門学校生徒自治会主催の生徒会に起因する。学校側から「大学昇格は断念し、工手学校に回帰する」との説明に、生徒たちは母校の廃校、展望のない学校運営に失望落胆し、直ちに「専門学校を大学に昇格させるために理事会と戦う」として闘争委員会を結成し、委員長に大崎竹雄氏、副委員長に津久井雄司氏を選任して、理事会の決定事項の取消、大学昇格の推進を訴えた。

3月6日の生徒会において議決文を発し、我等一同の愛校の精神並びに憂国の至誠は只拱手傍観之を黙過するに忍びず･･･」と悲壮激越、愛校心の熱意がほとばしるものであった。又、学生は大挙して俵国一管理長宅へ大学昇格の請願行動を実行した。大学昇格は専門学校卒業生にも大きな関心事であり、大岡吉邑氏（後の理事長）、山田利平氏（後の理事）の働きにより、理事会、卒業生、工専生徒を以って議論したが、理事側からはほとんど発言がなかった。卒業生鈴木隆晴氏が「資金がないために昇格しえないとは本末転倒、理事会は昇格を主張せよ、資金は我々が作る」との発言があり、東福寺正雄氏は「計画しかるのち資金である」と発言。最後に菊池武一氏から、工学院大学設立準備（又は調査）委員会を設けると動議が出された。

かくのごとく先輩の努力の成果は、昭和23年7月31日、文部大臣に大学設置認可申請書が提出された。宿願の工学院大学設置の件が昭和24年2月21日、「校学九八号」を以って文部大臣より許可。

次に、「都心型を特徴とする学園」の新宿校地再開発に関し、千葉県支部伊藤真治氏（東京都水道局勤務・校友会総務部長・大学理事）のご尽力が功を奏したことを記す。大学に隣接する淀橋浄水場の移転計画による、通称三角地の売却情報を大学にもたらした。当時の橋本宇一理事長は契約書の末尾に「10年間は土地の売買は不可」との条項があるため購入保留したが、弁護士の心配無用の助言があり購入した。三角地の購入により校地再開発に際し一街区として開発に役立ったことは明白である。

高齢者川柳

後ろ髪　引かれるほどの　毛もないし

近隣支部行事に参加して

令和5年9月10日、埼玉県西支部報告会兼意見交換会+セミナー･懇親会に参加しました。

（機械工学科･1975卒）井坂　隆一

埼玉県川越市のウエスタ川越で開催され、23名が参加しました。秋田支部長の開会挨拶、令和4年度の事業報告及び会計報告があり、島林幹事より令和4年度の会計監査報告がありました。

続いて、昭和47年に機械工学科を卒業された林　明氏が「東南アジアの上下水道施設整備事業の黒子として働き50余年」と題する講演をされました。内容は学術的で、私の頭では理解に苦しみました。ただし、「東南アジアでは、人をだます事は当たり前でだまされる方が悪く、やったもの勝ちの世界だそうです」ということは頭に入りました。私からは、千葉県支部の寺岡光二氏が執筆した「昭和の青春物語」（文芸社発行）を20冊無料で配りました。喜んで受け取ってくれました。

工学院大学校友会埼玉県西支部　セミナー兼懇親会（ウエスタ川越）2023年9月10日

母校の近況

（資料提供：工学院大学後援会、工学院大学校友会/ 参考資料：工学院大学元学長　水野明哲名誉教授HP/文責：機械工学科1975年卒　植木幸裕）

今回お届けする内容は、母校の不名誉となるような事柄で、この様な記事を掲載したくはないのだが、今、母校で起きている学校法人の理事会（学園の経営戦略や予算・決算等の意思決定・監督機能を担う機関）と、3つのステークホルダーである3会（評議員会*、後援会、校友会）との対立問題の実情を多くの会員に知ってもらい、これらの組織がお互いに協力し合って学園を盛り上げ、発展させて行くという本来の姿に早く戻ってもらいたいが為に、敢えて取り上げることとした。

評議員会：学校法人の業務執行の諮問機関として、私立学校法で設置が義務付けられている機関で、その第43条で「評議員会は、学校法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。」と規定されている。

【対立問題の概要】

大学キャンパスのリニューアル計画に対する進め方について、計画を推進したい後藤理事長派と、計画内容が不透明で且つ膨大な投資を必要とする経費負担から経営危機に陥ることを懸念して推進には慎重な伊藤学長派が対立している。是が非でも計画を推進したい理事長派は、自派に都合の良い人物を理事会に送り込んで主張を通さんが為、寄附行為（企業の定款に相当し、私学の憲法と言えるもの）を強引に変更したほか、リニューアル計画に疑問を感じて調査し追及した監事と理事各１名を、機密漏洩により健全な運営を妨害したとして理事長と理事会は、この2名を解任してしまった。これらのことなどから、伊藤学長派は後藤理事長派に不信感を抱き、両派の対立が深まっているというのが、3月中旬時点でのざっくりとした概要である。また、寄附行為で定められた監事の定数（2名）を満たさない状態が続いていること、評議員理事3名が選任されていないこと、反発を強めている伊藤学長派による評議員会ボイコットで評議員会が開催されていないことから、日本私立学校振興・共済事業団は1月30日、学校法人としてのガバナンス（組織統治）機能不全と判断し、2023年度の私学助成金の50％減額（2022年度の私学助成金は6億7千万円）を決定した。

【リニューアル計画とは】

そもそも、キャンパスリニューアル計画とはキャンパスの役割を見直すというもので、現在の1･2年生が八王子、3年生以上が新宿という位置付けから、実験施設を新宿から八王子に移転し、新宿は人材や情報の交流の拠点にするというコンセプトで、具体的には新宿に建築学部と情報学部、八王子に先進工学部と工学部を配置するという計画だ。

これに伴い、現在、高層棟に隣接している公開空地（エステック広場）に新棟を建設して高層棟とエステックビルとも連結し、その1階部分をエントランスとして通り抜けられるようにして人・モノ・情報を融合・交流させて賑わいを創出するというもので、これら3棟とも、2，3階部分はテーマ施設、地下1，2階は店舗として室内公開空地とし、新宿キャンパスは機能維新リニューアルに加えて、エステック街区全体の低層部を「開放空間（＝通路機能確保）、賑わい創出空間」として再開発する計画だ。これにより新宿キャンパスの教学スペースが大幅に減ることとなる。また、八王子においては、新宿から移転する実験設備のスペース確保の為に、まだ建て替えの必要が無いいくつかの実験棟を壊し、新棟を建設し、研究室や実験室を集積するという計画だ。

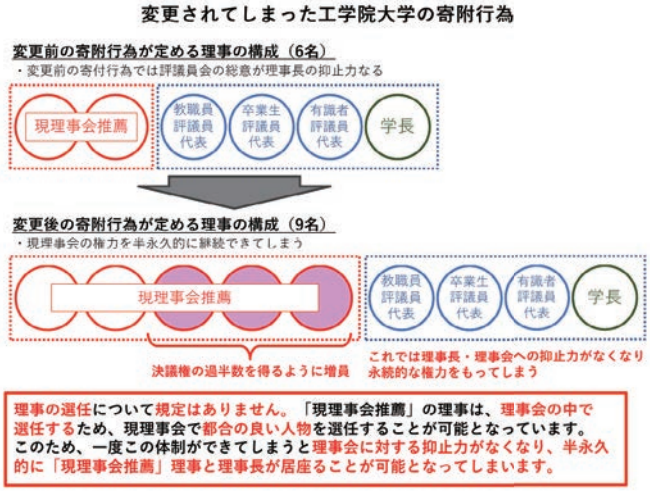
これに掛かる費用は629億円（エステックビル設備改修等を入れると852億円）が見込まれており、120億円程度の年間収入しかない本学にとっては5倍以上の建物等への投資計画であり、今後18年間に年平均35億円の支払いが生じる為、教育と研究を基本とする学園の健全な運営が危ぶまれ、将来的に経営危機を招くことが懸念される。更にリニューアル計画の終了後には1989年（平成元年）に竣工した現在の新宿校舎の建て替え費用に1,000億円以上の金額が想定されることを考慮すれば、このリニューアル計画は、一部の計画推進派が強硬に推し進めるのではなく、もっと慎重に、長期ビジョンを見据え、理事会や評議員会で審議・検討すべき事案である。

【改定された寄附行為】

学校法人工学院大学寄附行為では、評議員会を置くことが定められており、その第30条第2項には私立学校法第43条と同じ文言で、『評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行状況について、 役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。』と記されている。そして、その評議員の構成は、この法人の専任の職員（教職員）から10人、卒業生から10人、有識者（学識者及び教育研究又は組織運営に高い見識や豊富な経験を有する者）から10人、大学の後援会会長と中高のPTA会長の2人、合計32人で構成される。

同様に理事会についても、理事をもって組織する理事会を置くことが寄附行為で定められており、理事会の役割は第19条第2項『学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。』と記されている。そして、その理事会の構成は、学長、専任職員の評議員から1人、卒業生の評議員から1人、有識者の評議員から1人、現理事会推薦の2人の合計6人で構成される。しかし今回、この現理事会推薦の

人数を、2人から5人へと強引に寄附行為変更したことで、理事長の意を呈した理事で理事会の過半数を占め、評議員会が理事会暴走を監視する機能を骨抜きにしてしまい、評議員会を形骸化させてしまったことが大きな問題となっている。（下図参照）



【対立軸】

リニューアル計画を推進したい後藤理事長を中心とした理事長派と、これを阻止したい伊藤学長を中心とした学長派（大多数の改革を求める評議員が支持している）が対立しており、学園の将来を憂う評議員会、後援会、校友会の3会は一致団結して学長派を支持している。

【学長派が指摘するリニューアル計画の主な問題点】

①計画に対する詳細な情報が評議員会に示されないばかりか、教学の長である学長を含めた教学部門への情報開示や議論もないままに、一部の経営者だけで、数年に渡り数億円の検討費用が支出され、秘密裏にコンサルタントだけで企画立案した計画を理事会執行部の独断で進めている。

②伊藤学長の了解や理事会の承認も無い中で、理事長派の理事が、キャンパスリニューアル計画は「理事長決議」で確定した計画として、教員に対して新宿から八王子への実験施設移転等の準備を指示した。

③計画が膨大な投資を必要とし、経営危機に陥る可能性を監事から指摘されているにも関わらず、これに反論できるエビデンスも示されず、「まだ決まっていない」の繰り返しで納得のいく説明もない。

④評議員会で出された計画に対する質問に、秘密情報であることを理由に明確な回答がなされていない。

⑤計画に対する説明責任を果たさないまま、2017年度以降2022年度までに約2.9億円をコンサルタント業務等に支出しており、更に2023年度予算に新宿・八王子リニューアルの実施計画案策定費として約1.6億円が計上されている。この約1.6億円については、評議員会において2023年3月時点で内容は決まっていないとと回答していながら、予算計上だけはしているという異常さがある。

【学長派が理事長派を信用できない理由】

①後藤体制を永続化する目的で、自派に都合が良いように寄附行為の変更を強引に行った。

②監事として調査した特に秘密情報とは言えないリニューアル計画の内容を評議員に漏洩したという秘密漏洩により、健全な法人運営を妨害したという善管注意義務違反で監事を解任した。しかし、私立学校法専門弁護士及び文科省監事窓口に相談しても、評議員へのこの様な情報提供を行うことは、経営を諮問する評議員の知るべき情報の提供であることから機密漏洩には当たらないとの見解を得ている。

解任された監事は、監事として後藤理事長のリニューアル計画の詳細を調査する過程で判明した利益相反の疑いのある契約等につき、事実関係の詳細を調査する作業を進めていた。その調査を妨害する為に解任したとしか考えられない。

③評議員会で「諮問及び審議未了」となった寄附行為変更事項を、その翌日、議事録署名印がなく正式な議事録ではない作成者不明の発言録なるものに「諮問完了」として、あたかも評議員会で審議が完了したかの如く文科省に許可申請をした。受け取り側は書類の中身は別として、規定の申請書類が揃っていることをもって受理したが、理事長派のそのやり方に、決定的な不信感を持った。

④評議員会は諮問機関であるので、諮問していない内容については答えようとしない不誠実な態度と、隠蔽体質が見て取れる。

⑤反対意見者を排除し、脅迫的な言動や行動で反対意見を封じ込めようとする。

⑥評議員会で既に決議した事項を、自分に都合の良い解釈をして次の評議員会で反故にするという暴挙を行った。

⑦規則で決められている期日までに決算評議員会を開催せず、解任して欠員となっている監事の補充及び、2名の新理事を決められた期間内に選任しないなどの法令違反、寄附行為違反を犯している。

【3会が評議員会をボイコットする理由】

前述した通り、『評議員会はこの法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行状況について、 役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。』と記されている。評議員会は理事会の諮問機関という立ち位置であり、理事会の決定事項を翻すことは出来ないので、その理事会に理事として評議員の各区分（専任職員、卒業生、有識者）から各１名を送り込んで、評議員の総意が理事会に反映されることにより、学校経営の独走を牽制する仕組みとなっていたが、今回の寄附行為改定で、現理事会推薦理事だけで理事会の過半数を占めてしまう為、理事長の意を呈した理事を理事会推薦理事として送り込まれてしまうと、評議員会の総意は反映されず、理事長の独断専行を許してしまう結果となる。

本来、評議員が評議員会を正当な理由なくして欠席する

ことは評議員の義務違反に当たるが、正当な理由がある場合はこの限りではない。評議員会と理事会が正常に機能しないと法人としての意思決定が出来ず、評議員会は学校法人にとって重要な機関と位置付けられている。その評議員会を3会がボイコットする理由は下記の通りである。

①後藤理事長は理事長として認められないからその人が招集した評議員会には出る必要がない。
後藤理事長は2023.6.16の決算評議員会で任期満了により退任している。その後選任された事実がない。2023.8.3の寄附行為変更で旧理事会から5名を新理事に選任できるようになったと言っているが、旧理事会が選べる新理事は6/16の段階で2名に過ぎず、そのことを8/3に効力が発生する寄附行為で変更は出来ない。従って、旧理事会は新理事として2名しか選べない。それなのに5名選べるようになったとして、5名を選んで、そこに自分が入っているという理屈は成り立たず、そこで理事長に選ばれたという主張に法的根拠はない。従って、正当に選ばれた理事長でない者が理事長であると称して評議員会を招集したとしても、そもそもその招集は違法で無意味なものであるから、その会合に欠席することは何ら問題ない。

②法人の役員登記で登記内容が実体を反映していない場合、登記そのものが無効である。
理事会が評議員会を無視した対応を取り続け、評議員会をかたちだけ開催すれば足りると考えている場合は、評議員会は形骸化しているので、参加することによって評議員会が開催されたものと見なされ、理事会の独断専行を許し、本学の利益に反するとの判断で評議員会を欠席することは、欠席する正当な理由となる。

③違法行為に対して訴訟を起こしても、訴訟費用には多額の費用が掛かる上に、裁判が確定するまで3,4年もかかり、その間の違法状態を是正できず、リニューアル計画は進んでしまう。仮処分申請を出しても、仮処分を早急に決定しないと大学が危機に瀕するような場合にしか出せないとの裁判官からの説明を受けており、仮処分申請も難しい。

④評議員会が開かれないと予算が決まらない。予算が決まらないと学校経営が立ち行かなくなる。そうなると文科省も理事会がおかしいということで何らかの指示が出るはずだ。それによって理事会の解散命令だとか理事長の解任命令が出る可能性がある。現在3会として取り得る最善の策が評議員会ボイコットと考えている。

理事長派に対して、結束して抵抗している3会の行動は、学校法人工学院大学に短期的には少なからぬダメージを与えてしまう結果となるが、このままでは学園の存続さえ危ぶまれる切実な危機感を3会は共有している。**理事長派の追放**は、長期的にみれば必ずや学園の利益となることを確信して行動している。早く以前のように理事会と3会が協力し合って、工学院のブランド力を向上させ、発展させられるようになることを願ってやまない。

高齢者川柳とわけのわからぬ我柳コーナー

ウクライナ　民主主義には　要なり　寺岡 光二
八十路越え　胸にときめき　美女効果　寺岡 光二
酒節制　二杯が限度　飲み三に　寺岡 光二
なげきたい　トイレの近さ　青春よ　寺岡 光二
来年は　AI川柳に　まかせます！　古澤 良夫
顔認証　近づき過ぎと　叱られる　古澤 良夫
イサン過多　そんなに多くは　ありません　植木 幸裕
長生きは　したくないねと　クスリ飲み　植木 幸裕
車いす　作って欲しい　回転計　植木 幸裕
返納し　もらったバス券　日に五本　植木 幸裕
金婚の　次の催事は　葬式か　植木 幸裕
春の香に　我若返り　腰のばす　太（ふとし）です
支部総会　楽しき酒を　飲むうれしさ　成田（なりた）十湖（とうこ）
下見兼ね　家族で訪ねる　墓地公園　葉井（ようい）周投（しゅうとう）
捨てられぬ　冥途の土産に　持って行こ　貧乏症（びんぼうしょう）
このカバン　昔旅行で　今病院　志方（しかた）無士（なし）
後ろ髪　引いてくれるな　毛が抜ける　新杯（しんぱい）翔（しょう）
シャンプーと　リンスは不要　見りゃ分かる　後頭（ごとう）光（ひかり）

頭の体操には効果抜群！ある一つの言葉、例えば「散歩」や「ボケ」等のキーワードに高齢者の「あるある」を結び付けて考えると面白い句も浮かんできます。紙と鉛筆さえあれば、時と場所を選ばずに楽しめます。出来上がった川柳を是非投稿してください。実名で出すのが恥ずかしいという方はペンネームを添えてください。
ご投稿は、chiba@kogakuin.or.jp までメールまたは、年会費払込取扱票の通信欄に記載してくださっても結構です。ただし、採用されても何も出ません。ただ一人ニンマリして「ボケたかな一人ニンマリ　眺める句」と周りの人から誤解されないようご注意を。

☆☆☆千葉県支部会員の皆様に御礼とお願い☆☆☆

千葉県支部は下記の多くの方々で支えられています。ありがとうございます。これからもご支援、ご協力をお願いします。

令和５年度会費納入者ご氏名（合計 ￥126,000）　敬称を省略させていただきます。

東　雄二	新井英伸	飯島康順	井坂隆一	岩本博行	植木幸裕	上田浩四郎	内山　太	大嶋茂幸
大日向 昭	小川善之	小高英二	小野　正	川村謙二	菊田征平	來住康弘	紺野恒一	佐藤研一
佐藤正吾	佐藤昌志	新海昌美	鈴木庸雄	添田峰夫	高嶋賢一	高梨亮右	高橋正良	武田　昇
塚田湧長	辻井　勝	寺岡光二	長島　澔	中山三男	成田忠志	長谷川 努	原田鉄司	原田　寛
古澤良夫	松原征志	松本　茂	横田　仁	吉村　征				

令和５年度ご寄付を頂いた方々（合計 ￥72,800）　敬称を省略させていただきます。

東　雄二	新井英伸	井坂隆一	植木幸裕	内山　太	大嶋茂幸	小高英二	小野　正	川村謙二
菊田征平	紺野恒一	佐藤正吾	新海昌美	鈴木庸雄	高橋正良	武田　昇	寺岡光二	長島　澔
中山三男	長谷川 努	古澤良夫	松本　茂	横田　仁				

高齢者川柳

皺くちゃの　妻の笑顔の　愛おしさ

2024年度 千葉県支部役員名簿

役　職	氏　名	学科	卒年	担当
支部長	新海　昌美	電気	1970	HP
副支部長	古澤　良夫	電気	1971	総務
副支部長	小高　英二	化学	1985	広報
会計	植木　幸裕	機械	1975	名簿
幹事	岩本　博行	化学	1969	広報
幹事	長谷川　努	電気	1971	広報
幹事	井坂　隆一	機械	1975	会報
幹事	吉村　征	機械	1984	事業
幹事	小川　達也	化学	1987	事業
幹事	新井　英伸	電気	1991	事業
会計監査	成田　忠志	化学	1978	
顧問	佐藤　正吾	建築	1960	
顧問	寺岡　光二	機械	1961	
顧問	來住　康弘	電気	1970	
顧問	横田　仁	機械	1973	

会報発行継続に皆様の絶大なご支援を!!

28回目となる千葉県支部会報を今年もお届けすることができました。この会報は、全国の校友とも手を携え、共に活性化して行こうということを目的に毎年1回発行しています。

新型コロナウイルス感染症は、昨年５月に感染症法上の分類を、季節性インフルエンザと同じ「５類」に引き下げられてから、マスコミでの報道も下火となり、生活環境は徐々にではありますがコロナ前の状況に戻りかけて来た１年でした。それに合わせて校友会活動もコロナ前に実施していたイベントを徐々に復活させてきましたが、イベント参加人数の完全復活とまではまだ行っていない状況です。その様な中にあって、校友会活動を通じて会員相互の親睦を深め、仕事や趣味などの面でも協力し合える環境を提供し、これらの活動の楽しさ、すばらしさを手に取ってご覧いただける記事と共に、母校の近況等もお伝えして行こうと思います。

この様な情報誌である会報発行に是非ご支援をお願い致します。

千葉県支部の活動は会員各位の会費や寄付金等で賄われています。2024年度の会費、そしてもし頂けるのであればご寄付も合わせて同封の払込取扱票による納入をお願い致します。また、本誌掲載の高齢者川柳を募集しますので、払込取扱票の通信欄に記載してご投稿ください。

年会費：3,000円　　ご寄付：任意

§ 編集後記 §

新型コロナ感染症は、2023年5月8日に2類から5類に引き下げられ、普通の日常生活が復活してきたように感じられます。ショッピングモール、居酒屋に人が戻ってきたようです。千葉県支部の行事も予定通り行うことができ、嬉しい限りです。また、支部会員からの手記原稿は4編（過去最多?）集まり、どれも内容が濃く、バラエティーに富んでいて読み応えがとてもありました。どうもありがとうございます。

振り返ってみると、今年は1月1日の能登半島地震、2日の羽田空港飛行機事故から始まり、どんな年になってしまうのだろうかと不安になりました。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ地区侵攻は終わらず、自民党派閥の裏金問題が表面化しました。嬉しいニュースは、WBCでの侍ジャパンの優勝、大谷選手の結婚でしょうか。

大変残念なことが一つあります。会報の中に詳しく書かれていますが、学園の「理事長派」と「学長派」の対立です。なぜこのような対立が発生してしまうのか、凡人の私にはまったく理解できません。両者が同じテーブルに座って意見交換を行えば解決するように思いますが、現実はそうならないようで、今日に至ってしまったようです。これからどのような展開になるのか不透明ですが、学生のためにも早急に解決させたい問題です。

千葉県支部はこれからも会員の親睦を深めるために、皆さんが参加したいと思える魅力のある行事を計画したいと考えております。会報をお読みの千葉県支部の皆様、どうぞ行事に参加していただきたくよろしくお願い申し上げます。そして、行事の提案がありましたらぜひご連絡ください。連絡先はchiba@kogakuin.or.jpです。お待ちしております。

文責　会報担当　（機械工学科・1975卒）井坂　隆一